

日本の真ん中で

・インターン者に聞く

<15>



都会ではないが、田舎でもない、ちょうどいいバランスの場所が、穂高町(現・安曇野市穂高)だった。

2級建築士・高松伸幸さんは、JR穂高駅前通りに設計事務所を構え、ログハウスを中心

高校時代は登山部に所属し、槍ヶ岳にも登った山好き。だから、北アルプスはこちら

高松伸幸さん

1971/1/13 群馬県

景観育成へ意欲

に「木造りの家」を手がける。和歌山市生まれ。都会にあこがれ、大学卒業後、一度は東京で会社勤めをしたが、「ピルの立ち並ぶ街は合わない」と2年3カ月で退社。実家に戻り、25

友人たちは「もって半年だ」と笑ったが、間もなく丸10年。現在、自分で設計した夢のマイホームを穂高で建築中だ。県景観育成サポーターや地域のNPO活動にも積極的にかかわり、1人の建築家として、新住民として、安曇野の環境と暮らしについて考えている。

【たかまつ・のぶゆき】98年2月、大阪市から穂高町穂高へ。同7月、「高松建築工房」を設立、事務所を自宅に置いた。04年3月、事務所をJR穂高駅前通りに移転。39歳。